

人権啓発推進ビデオ&DVD

みなさんはどう思いますか？

みなさんはどう思いますか？

上司のきもち 部下のきもち
上司と部下の深い溝？

きもちを想像する
想いはひとりひとり違う



職場の人権

～相手のきもちを考える～

本編 27分+特典

解説書付き

VHS 69,300円(本体66,000円) [C#3114]
※字幕版あり [C#3115]

DVD 69,300円(本体66,000円) [C#3116]
(字幕版付き)

企画意図

職場には様々な人間関係がある。上司と部下、男性と女性、先輩と後輩、正社員と派遣・パート社員。両者の間に様々なトラブルが生じ、パワハラやセクハラ、心の病に発展することも珍しくない。これらは、コミュニケーション不足や相手への理解不足が原因であることが多い。職場を取り巻く環境が激しく変化している現在、自分の価値観だけを押し通しては、共に同じ目標を目指すことは難しくなっている。つまり、今まで以上に“相手のきもち”を考えて仕事をしないといけないということである。しかしながら、発想を変えれば、“相手のきもち”を考えていい仕事できれば、職場とは多様な人々の多様な価値観に接することのできる貴重な場所である。

立場や条件の異なる仲間と、互いの人権を尊重しながらより良い職場環境を作るためにはどうすればよいか。この作品は、パワハラやセクハラ、コミュニケーション不足で起こるトラブルを防ぐために、“相手のきもち”を理解することの重要性を説く。



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

社員相談室・新人相談員の佐藤が、様々な職場で起こるトラブルや悩みに遭遇することによって、“相手のきもち”を考えるとどういうことなのかを理解していく過程をドラマ仕立てで描く。

この作品は、一連のドラマの中に下記の6つのテーマを内包している。職場で身近に起こり得るパワハラやセクハラ、コミュニケーション不足が原因のトラブルを描くことで、そこにある意識のズレと問題点を提示してゆく。

①派遣社員のきもち 正社員のきもち ～違うのは「役割」だけ?～

社員相談室で働き始めた佐藤は、企画部・派遣社員の平田さんから相談を受ける。「派遣社員は、嫌になれば職場を代われればいいんだもんね。私たち社員は、納得がいなくても続けなきゃいけない」という会話を耳にする平田さん。それに対して、「正社員と立場が違うのはわかります。でも同じ職場で同じ仕事をしているのに、ただ疎外感だけを感じるんです」「派遣は、契約更新を断られればそれまでなんです。それに私の名前はハケンさんじゃありません!」こう打ち明ける平田さんの想いを理解するためにはどうすればいいのか。佐藤は、相談を受けてはじめて自分が派遣社員を一段下に見ていた事に気づく。

派遣社員と社員との意識の違いについて考える。仕事の役割は、立場の優劣ではない事を理解します。

②上司のきもち 部下のきもち ～上司と部下の深い溝?～

佐藤が退社する途中、足取り重く会社に戻るところの中井を見つける。中井は、佐藤の営業部時代の後輩である。中井は、上司の橋本部長とうまくいっていないと訴える。橋本部長と中井のそれぞれの言い分から、上司と部下の意識のズレを浮かびあがらせる。

どちらの言い分も一理あるのに、コミュニケーションがうまくいかないのは、なぜなのか、どうすれば上司と部下の溝を埋められるのかを考える。世代間の仕事のやり方の違い（メールの使用法、報告、連絡、相談の仕方）についても考えます。

③女のきもち 男のきもち ～セクハラを生む差別意識～

佐藤は、企画部・女性社員の村山さんからメールを受ける。

『仕事の度に、「女だから」って。言われ慣れていたつもりだったけど、疲れました。』という内容。村山さんを悩ませる職場環境とは…。『やっぱり、お局さまはやりづらいですよ』『今時そんな事言っていたら、セクハラだって騒がれるぞ(笑)』と企画部の男性社員。それを聞いて落ち込む村山さん。

誰かが傷つくような職場では、働きやすいとは言えません。本当の意味でセクハラをなくすには、心の奥にある意識から変えなければいけないことに気づかせます。

④きもちを想像する ～想いはひとりひとり違う～

佐藤は、中井が無断欠勤をしていると聞いて、中井の家まで訪ねていく。中井が言うには、「職場のみんなは、忙しくて、聞きたいことがあっても相談できない状況」。成績を上げられない中井に、橋本部長の指導が段々厳しくなっていく。でも周囲は、部長が怖くて何もできない状況。そんな中、社員相談室には、以前から匿名で「私のまわりでパワハラが起きています」というメールが送られてきていた。

パワハラメントが起こる過程と同調について描きます。パワハラをしないためにどうすればいいのか。またパワハラが身近で起きている時はどうすればいいのかを考えます。

⑤きもちを伝える 受け取る ～コミュニケーションはキャッチボール～

パワハラに苦しむ中井の事を、橋本部長に理解してもらうため、佐藤は行動を起こす。

橋本部長に「僕と中井とでは、ストライクゾーンが違うんです。誰だって違う人格を持っているんです」と身をもって伝える。

相手が違えば対応も違って当然。相手のきもちを聴いて理解したうえで接することが、円滑なコミュニケーションには、重要です。職場のより良いコミュニケーションについて考えます。

⑥ダイバーシティ ～職場は多様な人々の働く場所～

エンディング。出勤する中井の後ろから、佐藤が走ってきて肩をたたき声をかける。席についた中井の肩に手を置く橋本部長。無言だがお互いの気持ちを確かめ合う。派遣社員の平田と社員の村山が書類について話しあっている。

佐藤の語り「職場は、立場も世代も価値観も違う人間が集まっている。だからトラブルだって起こる」「でも、それだけ様々なひとが接することのできる場所って、逆に職場くらしが楽じゃないかな」

職場は、様々な人が、様々な形態で働いている。それぞれが働きやすい職場とは、どんな職場なのか。自分の職場を振り返り、ダイバーシティ(多様性)について考えます。

プロデューサー・・・真野 友也
田野 稔
脚本・監督・・・長谷川知嗣

撮影・・・高根沢聡志
照明・・・佐渡 佳美

制作協力・・・株式会社 グループ現代

企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部

2008年作品

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは・・・〒730-0013
広島市中区八丁堀16番10号(広島東映劇場内)
東映株式会社教育映像部
広島出張所
電話 511-2066 FAX 221-0966